

(様式5)

調査報告書

| | |
|---------|-------------------------|
| 訪問調査日 | 平成 20年 7月 30日 |
| 調査実施の時間 | 開始 10時 00分 ~ 終了 14時 20分 |

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 訪問先事業所名 (都道府県) | グループホーム アルプス (鹿児島県) |
|-------------------|--------------------------|

外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | <u>11</u> |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を实践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を实践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | <u>2</u> |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | <u>6</u> |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | <u>11</u> |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|----------|--|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 <u>山下 賀子</u> 氏名 <u>腰 高行</u> |
| 事業所側対応者 | 職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>倉津 ヤス子</u> ヒアリングを行った職員数 <u>3</u> 名 |

| |
|---|
| <p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。 |
|---|

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 8月 14日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定第 第4670103581号 | | |
| 法人名 | 医療法人 うえまつ整形外科 | | |
| 事業所名 | グループホーム アルプス | | |
| 所在地 | 鹿児島市荒田1丁目11-1 (電話) 099-286-1230 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島市星ヶ峯4-2-6 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年7月30日 | 評価確定日 | 平成20年8月21日 |

【情報提供票より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|-------|-------------------------------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 4月 7日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 16 人 常勤 12人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート 造り |
| | 3階建ての 2～3階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|----------|-------|
| 家賃(平均月額) | 36,000 円 | その他の経費(月額) | 15,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 200 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,000 円 | | | |

(4) 利用者の概要(平成20年7月1日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 0名 | 女性 | 18名 |
| 要介護1 | 1名 | 要介護2 | 6名 | | |
| 要介護3 | 5名 | 要介護4 | 4名 | | |
| 要介護5 | 2名 | 要支援2 | | | |
| 年齢 | 平均 87歳 | 最低 | 75歳 | 最高 | 97歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------------|
| 協力医療機関名 | うえまつ整形外科 坂元眼科 松村歯科医院 篠原歯科医院 |
|---------|-----------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性の高い住宅街の中で3階建ての当ホームは、医療法人を母体として、協力体制が充実している。1階のデイサービスセンターのアルプス広場を利用した、地域の人々との交流の機会も多い。月1回の音楽療法は特に入居者の人気も高く、「歌うことが楽しい」と話している。入居者が近所へ買い物や散歩を行えるように支援し、笑い声が絶えない楽しい日常生活が送れるよう、チームワークで取り組んでいる。職員は、サービスの質の向上を目指し自己研鑽意欲も高い。地域の中でその人らしく安心して暮らすことができるよう、一緒に支え合う関係を築いている。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回評価での改善課題は特になし |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で評価に取り組み、自己の振り返りを行いながら、サービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 会議の中で民生委員より紹介を受け、地域のあいご会のしめ縄作りに入居者も参加したり、個人タクシー関係者の協力で入居者の万一の行方不明時の対策や協力体制の構築に取り組んでいる。また、防災訓練時は、地域住民の参加も得られ、会議を活かした活発な取り組みがされている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 家族会や面会時に、個別の連絡帳を用い、家族の意見や要望を出してもらおう働きかけている。出された意見は、話し合いをもち解決に向けた取り組みを行っている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| 重点項目④ | 地域の中学校の運動会に参加したり、職場体験学習の受け入れを行っている。幼稚園や保育園児の訪問交流もある。1階のデイサービスセンターのアルプス広場では、俳句、フラダンス、ヨガ教室に地域の方が参加し、発表後に食事を一緒にしたり、敬老の日に近所の方が踊りを披露されるなど、地域の人々と交流を図っている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 理念に、「ご家族、地域の方々との交わりを大切にいたします」とあり、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援するための理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、玄関やリビング、スタッフルームに掲示すると共に、毎日の申し送りや月例ミーティング時に唱和し、理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の中学校の運動会に参加したり、職場体験学習の受け入れを行っている。幼稚園や保育園児の訪問交流もある。1階のアルプス広場で、催しに参加したり、食事を一緒にしている。敬老の日に近所の方が踊りに来られるなど、地元の人々との交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価を行っている。評価を年1回の家庭訪問に例え、自己を振り返る機会としながらサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員より紹介を受け、地域のあいご会のしめ縄作りに入居者も参加したり、個人タクシー関係者も会議に参加し、万一の行方不明時の対策や協力をもらったり、地域の人と一緒に消防訓練方法を検討するなど活発な取り組みをしている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の担当者と情報交換や相談を行い連携を図っている。市の介護相談員も年2回受け入れている。市の依頼によりグループホームの管理者養成研修を行うなど協力関係を築いている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時に入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告をし、個人別の連絡帳を用いて情報交換をしている。ホーム便りは、個別に作成し本人の写真なども送付している。金銭出納帳の報告も行い、家族の確認のサインをもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や面会時に、連絡帳で家族の意見や要望を出してもらおうよう働きかけている。出された意見は職員で話し合いを持ち、意見が反映されるよう取り組みを行っている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 各ユニット間の職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。離職の場合は理由を説明し、ダメージを防ぐ為の配慮をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は職員が交代で参加し、伝達講習も行っている。法人全体の内部研修も年2回ホームで企画実施している。又、資格取得の為の研修希望者には勤務調整をし、参加できる体制作りを行っている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県、市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修や行事に参加している。他グループホームとの交流を図り、質の向上を目指す取り組みとして、研修も取り入れている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望者には、家族と相談しながら本人の状況に合わせた説明を行っている。場の雰囲気に馴染めるように、ホームの見学をしてもらったり、入居者と一緒にお茶を飲みながら楽しく交流が図れるよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入居者が人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、野菜作り、梅干し、らっきょう漬け、ちまき作り等教えてもらいながら支援している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族からの情報や、日々の生活の中で本人の意向や希望をききながら、家事活動等も自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に沿った支援を行っている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人、家族や関係者から意向や希望をきき、職員の意見を参考に介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 管理者は毎月1回介護記録をまとめ、問題点を挙げ評価し、担当者会議で話し合いケアプランに活かしている。6ヶ月に1回の定期的見直しと、状態変化に合わせた随時の見直しもしている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族と話し合い、通院の支援や墓参り、教会への送迎を行っている。デイ・サービスとの交流音楽療法への参加等、柔軟な支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医の受診は、入居者及び家族の希望を大切に、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合は、病院で看取るという方針があり、家族に説明し職員も情報を共有し、主治医からもその都度説明が行われている。家族の希望でホームで終末期を迎えるケースがあり、医療機関と連携を図り安らかな終末を支援した。 | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 管理者は、入居者のプライバシー確保の重要性に留意し、職員の誓約書をもらっている。日々のケアの中で、自尊心を大切に声かけや対応の仕方を職員に指導している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の状態に合わせて、食事や入浴の時間をずらしたり、散歩コースや外出の希望など本人の希望に応じて、柔軟に対応している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は入居者の希望を入れ作成し、菜園で一緒に収穫した野菜で季節感を味わっている。買い物から調理や後片付け迄、個々のレベルに合わせてできることを支援している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の体調や希望に合わせて支援し、毎日シャワー浴をする人もある。基本的には週3回の入浴支援を行っている。拒否の強い方には声かけの工夫や家族の協力をもらったりしながら、入浴を楽しめるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者の生活歴や趣味を把握し、野菜作り・調理・洗濯物たたみをしたり、広告のちらしをいのれんや貼り絵を作っている。週1回デイサービスと合同の音楽療法に参加したり、音楽演奏の来訪者もあり楽しみの1つである。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買い物や近所の公園、お寺へ散歩に出かけたり、弁当持参での花見、ソーメン流しの外食に出かける等、外出する機会を多く作っている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は、玄関非常口は開放し、居室も鍵をかけることなく自由な暮らしを支援している。個々の様子を見守りながら、外出への気配を察知し一緒に散歩することで気分転換を図っている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施し、地域の方の参加協力体制も得られている。デイサービス職員と合同の訓練も実施し、災害に備えた備蓄もある。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量や、水分摂取量を把握している。毎月体重測定も行っている。 医師や栄養士と相談しながら、個別的に栄養状態のコントロールを図っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関にはベンチや椅子、リビングにはソファが置かれ、室内は季節の花が飾られている。トイレは可動式手すりも設置され、ベランダに各居室から出入りしやすい作りとなっており、安心して過ごせるよう工夫されている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、ベッド、椅子、テレビ、家族の写真や鉢植え等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。